

2022年度 日本工学院専門学校											
ダンスパフォーマンス科											
キャリアゼミ 3											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	講義	時間数	15	単位	1
担当教員	井口雅人/野中志乃			実務経験	有	職種	音楽プロダクション制作業務				
担当教員紹介											
ダンススタジオにて店舗運営管理・ダンサー育成業務・キャスティング業務等幅広く実務を経験。マツビラティス指導者資格、コンディショニングコーチ認定などダンサーのセカンドキャリアに役立つ資格を有する。											
授業概要											
1960年代ビートルズの来日から現在の音楽事情を業界の流れに沿って学び、I Tの時代に新しい音楽（ハード・ソフト）でいかに人を魅了できるか課題解決学習を中心にチームで検討していく。CDリリースとライブの関係性が崩れアーティストを売り出すテクニックはどのように変化していったのか？テレビが中心であった時代からネット全盛期の今日におけるプロモーションやデビューの方法の移り変わりなどを知り全学生がマネージャーになってみたらの視点で考えてみる。											
到達目標											
音楽史を学ぶと同時に社会背景を学び高度経済成長期からバブル時代、90年代バブル崩壊後は新たな手法の音楽メディアの登場と海外に後れを取る日本の音楽事情。更にはI T分野との音楽の関連性と未来に向けての取組を個々の学生が明確な課題を持って取り組む事が出来る。											
授業方法											
■授業では、音楽史を中心に世界の歴史を学ぶ。（一般教養的な授業） ■ヒット曲の背景にはどんな経済の動きがあったか？新しいメディアの登場によりマネジメントの手法はどう変わり、今後はどう進化してくのかチームごとで検討して行く。											
成績評価方法											
試験・課題 80% 試験と課題を総合的に評価する 平常点 20% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
この授業では音楽の歴史を探りながら社会との関連性を学び音楽ビジネスがどう移り変わって来たのかを知る。そのため単に音楽史を学ぶのではなく日本さらには世界の現代史を深く学ぶことが焦点である。社会に出るうえで必要な一般教養知識を学ぶための授業である。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
毎回資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	アメリカ式ビジネスモデル										
第2回	SNSの普及と音楽業界の関係～現在地～										
第3回	SNSの普及と音楽業界の関係～未来の可能性～										
第4回	印税について考える										
第5回	興業収入について考える										

2022年度 日本工学院専門学校	
ダンスパフォーマンス科	
キャリアゼミ 3	
第6回	グッズ販売などのコンサート収入
第7回	配信・ネット事業についての考察
第8回	著作権とは
第9回	著作権法を知る(1)
第10回	著作権法を知る(2)
第11回	新しいエンターテインメントビジネスを考える
第12回	新しいエンターテインメントビジネスを考える(発表)
第13回	ライブ・エンターテインメント論(3)
第14回	ライブ・エンターテインメント論(4)
第15回	まとめ 及び 後期試験対策